

P2-006

幼児期の子どもを育てる母親の育児感情—子どもの年齢に伴い変化する困難感からの検討—

平沼 晶子

東京福祉大学 社会福祉学部 保育児童学科

【問題】

生後1歳を過ぎると、言葉の発達をはじめ、かんしゃくや癖などの行動面、食事や身の回りに関する生活面など、養育者は様々な不安を抱えやすい。また、その後も子どもの年齢と共に子育てにおける不安は質的に変化していく。そこで、本研究では2歳から6歳の子どもをもつ母親を対象に質問紙調査を実施し、子どもが1歳の頃の子育てと現在の子育てについて尋ね、各々における育児感情の違いと困りごとの変化を明らかにすることを目的とする。

【方法】

調査対象：A市で2歳から6歳の子どもをもつ母親542名。子どもの年齢は、2歳：124名、3歳：209名、4歳：187名、5歳：22名。調査期間：2014年6月～9月。調査方法：A市内の幼稚園1園と保育園4園に承諾を得て質問紙調査を行った。実施に際しては研究主旨と研究倫理を書面に明記した。調査内容：吉田（2013）の育児不安尺度（3歳児用）を参考に18項目を作成し、子どもが1歳の頃と現在の各々について4段階評定で回答を求めた。また、子どもが1歳の頃と現在の各々において「子育てで困っていた（いる）こと」の有無とその内容を尋ねた。尚、1歳の頃とは1歳6か月児健診を受診した頃とした。

【結果と考察】

育児不安に関する18項目について因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行ったところ、「育児満足」「自信のなさ」「育てやすさ」「育児疲れ」の4因子が抽出された。各因子の尺度得点を1歳の頃と現在（2歳、3歳、4-5歳に区分）で比較した結果、「育児満足」と「自信のなさ」に有意差がみられ、両因子とも1歳の頃よりも2歳、3歳、4-5歳の方が有意に高かった。以上より、2歳、3歳、4-5歳の子どもをもつ母親のいずれにおいても1歳の頃より育児への「満足感」は高まる一方で、「自信のなさ」も高いことが示され、子育てという先の見通しが立たない中では、現在直面している問題とそれに伴う不安の大きいことが推察された。子育てにおける困難の有無に関しても、1歳の頃では困っていることが「あった」（48.8%）は「なかった」（52.0%）を下回っていたが、現在では困っていることが「ある」（51.3%）が「ない」（48.7%）を上回った。そして、現在の困りごとの内容は、1歳の頃にみられたADLや発育発達、病気に関する悩みが減少する一方で、子どもの性格、行動、対人面、親自身の悩みが増加していることが示された。本研究は平成25～26年度科研費による助成（JSPS科研費25885072）を受けて行われた。

P2-007

4歳児の母親の心の状態と子どもへの関わり方との関連

佐藤 ゆき^{1,2}、加藤 忠明³、鈴木 智恵子⁴、顧 艶紅⁵

¹東北大学大学院医学系研究科、

²東北大学東北メディカル・メガバンク機構、

³独立行政法人国立成育医療センター成育政策科学研究部、

⁴佐賀大学医学部看護学科、

⁵帝京大学大学院公衆衛生学研究所

【背景】

母親の心の状態が育児行為を介して子どもの心身の健康や生活行動に関連する可能性が示唆されている。本研究では未就学期の子どもをもつ母親の心の状態と子どもとの関わり方・育児行為との関連について検証する。

【方法】

対象は北海道、東京都、大阪府、兵庫県、岡山県の計5道府県に在住する母親とその子ども（対象年齢4-5歳）1,751組とした。調査は母親による自記式質問票とし基本特性、心の状態、育児状況、家庭状況等に関する項目で構成した。心の状態は日本語版Hospital Anxiety and Depression Scaleを用いて不安症状と抑うつ症状を評価項目とした。子どもとの関わりは13項目「歯磨き仕上げ」、「子どもが退屈そうであると思った時一緒に遊ぶ」、「子どもを抱きしめたりやさしい言葉をかけて愛情を示す」、「子どもがイライラしていると思った時どうしたのと聞いてみる」、「家にいる時ボール遊びやゲームなど子どもと一緒に過ごす」、「どこかにでかけて子どもが疲れていると感じた時休んだり抱っこする」、「忙しい時に子どもが遊びたがっていても一緒に遊ぶのを後回しにする」、「子どもが間違った行動をした時その理由を聞いてどうしたらよいか話し合う」、「家族で遊びに行く時大人の都合だけで決めずにできる限り子どもの行きたいところを取り入れる」、「子どもが食事を残した時食べるようにすすめる」、「こどもをほめる」、「こどもをたたく」、「こどもを大声でしかる」を設け、回答は良好から不良までの4段階を設定した。調査返却のあった1,001名（回収率57.1%）のうち、有効回答の得られた962名分を解析対象とした。ロジスティック回帰分析により子どもとの関わり方の項目ごとに母親の不安抑うつ症状を呈するオッズ比を算出した。

【結果】

不安症状または抑うつ症状が高い場合、子どもの歯磨き仕上げをしない傾向が強く粗オッズ比はそれぞれ2.4（95%CI：1.0-5.8, P=0.04）、2.9（95%CI：1.1-7.4, P=0.02）であった。他、「子どもが退屈そうであると思った時一緒に遊ぶ」、「子どもを抱きしめたりやさしい言葉をかけて愛情を示す」、「こどもをたたく」、「こどもを大声でしかる」の項目が母親の心の状態と統計的に有意な関連を示した。

【結論】

母親の心の状態は子どもとの関わり方のうち具体的な行為に強く関連することが示された。